

## ABSTRAK

### Pemerolehan Partikel Level Dasar Bahasa Jepang Siswa SMA

Assifa Gunawan Putri

1303709

Penelitian ini membahas tentang pemerolehan partikel-partikel yang telah dipelajari siswa SMA. Tujuan penelitian ini adalah untuk mengetahui seberapa banyak siswa yang dapat menguasai partikel level dasar bahasa Jepang, untuk mengetahui pemerolehan partikel level dasar apa saja yang paling dikuasai oleh siswa dan untuk mengetahui faktor apa saja yang menyebabkan kurangnya pemerolehan siswa dalam menguasai partikel level dasar bahasa Jepang. Dalam penelitian ini digunakan metode deskriptif. Untuk memperoleh data, instrumen yang digunakan berupa tes dan angket. Sampel dalam penelitian ini adalah siswa SMA kelas 1 dan 2 dari 3 sekolah yang berjumlah 150 siswa. Berdasarkan hasil analisa terhadap data terkumpul, diketahui bahwa dengan patokan lebih dari 45% dianggap “dapat menguasai”, maka siswa yang dapat menguasai partikel level dasar adalah 32,87% dan siswa yang tidak dapat menguasai partikel level dasar adalah 67,13%. Urutan partikel yang dapat dikuasai siswa dari yang paling mudah ke yang paling sulit adalah は > が > へ > で > に > の > も > と > を. Diketahui faktor penyebab hal ini adalah siswa kesulitan mengingat fungsi partikel dan tidak begitu mengerti secara mendetail terkait setiap fungsi partikel yang dipelajari. Dari hasil penelitian yang telah dilakukan, penulis berpendapat bahwa diperlukannya penjelasan lebih mendetail terkait fungsi setiap partikel bahasa Jepang untuk meminimalisir kebingungan siswa mengenai penggunaan partikel dalam kalimat bahasa Jepang, serta diperlukannya kegigihan siswa dalam mengingat kembali partikel yang telah dipelajari.

*Keyword : pemerolehan bahasa, partikel bahasa Jepang, partikel level dasar, fungsi partikel, siswa SMA*

## ABSTRACT

### **Acquisition of Japanese Language Basic Particles of High School Students**

Assifa Gunawan Putri

1303709

This research discuss about acquisition of basic particles which had learned by high school students. The purpose is to find how many student who understand basic particles of Japanese language, to find which particles they understand and to find any factor caused the lack of understanding to utilize the basic particles of Japanese language. Description method is used in this research. The instrument is a questionnaire and a test. The sample are first and second year high school students numbered 150 from 3 different high schools in Bandung city. According to score standard, it is known that students whose score is above 45% are considered understand. And the result of data analysis shown that 32,07% of students is understand and 67,13% of students do not understand. The sequence from the easiest to the hardest basic particles understand by students are は > が > へ > で > に > の > も > と > を. The factor that caused the lack of understanding to utilize the basic particles is difficulty of remembering the function of particles and not to understand the detail of every function basic particles which had learned. From the result of research, writer make an assumption which is needed for more detail explanation related to every function basic particles in order to minimalize confusion of student to utilize to utilize the basic particles of Japanese language. Also, needed for persistence of students to remembering all function basic particles which had learned.

Keyword : Language acquisition, Japanese language particle, function basic particles, high school students.

## 高校生における日本語きそレベル助詞の取得

アッシファ グナワン プテリ  
1303709

### 要旨

本研究は高校生がすでに習った助詞について取り上げる。この研究の目的は どのように多きの学生助詞を習得することができるため、よく ‘理解した助詞を知っているため、それに学生たちが日本語きそレベル助詞を使いまちがいのりゅうとしてどんなことをしているためである。この研究の中でじょじてき方を使うことにする。データをまらうためにテストとアンケートを使う。それからこのサンプルはべつの高校のみつから、かく学校は一年生と二年生の学生が 150 である。研究の結果によるとベンチマークで 45%パーセント以上を理解するために考えるられている、学生が問題についてきそレベル助詞を使う理解できるのは 32,87%で、できないのは 67,13%である。最も簡単ものから最も難しいものまで、高校生が理解している助詞の順序は「は> が > へ > で > に > の > も > と > を」である。このことのりゅうとして習った助詞の使い方についてあまり詳しくわからなくて忘れたから理解できるのは難しさを知っている。研究の結果から、筆者は日本語の助詞の使い方をよく説明するのが必要だと思う。それは助詞を理解するためで、助詞の使い方について難しさを引く。それに、もう習った助詞をまた覚えるのにどりよくする。

キーワード：える、日本語の助詞、基礎レベル助詞、高校生、使い方

## 1. はじめに

助詞を勉強するのが難しい少数の学習者である。助詞の配置はあらゆる種類の日本の文章パターンにおいて主要なものになる。助詞が日本語の意味と意味に大きく影響するため。助詞の配置が間違っていると、文と意味と意味が異なる。したがって文節を正しく解釈するためには、助詞の適切な知識がふかけつである。日本語の助詞はかなり多く、その機能は様々である。例えば、特定の文章中の助詞は、それらが助詞「を」及び「に」と同等であることを意味をする。4 か月間の PPL の 観察と経験の結果に基づいて、多くの種類の 助詞、高校生が その配置に乱調を与えるようにする。それで不適切な助詞の配置は問題の文節の意味に影響を与える可能性がある。助詞の解釈の違いは日本語を勉強する際に遭遇するこんなんの一つである。高校生は、対象、場所 と時間の 記述を含む完全な日本語の文節 を理解すること できるが、助詞を 完成させるという問題に練習しても、高校生がまた多くのあまりがある。これは高校生が研究せれている格助詞の配置と機能を理解していないことを証明している。

## 2. 研究の設定

研究の問題点は次のとおりである。

- a. どのように多くの学生が日本語の基本レベルの助詞を習得するか。
- b. 学生によって習得せれる助詞は何か。
- c. 基本レベルの助詞の使用を理解していない要因は何か。

## 3. 研究の目的

研究の問題てんは次のとおりである。

- a. どのように多くの学生が日本語の基本レベルの助詞を習得するか を知るために。
- b. 学生によって習得せれる助詞は何かを知るために。

c. 基本レベルの助詞の使用を理解していない要因は何かを知るために。

#### 4. 研究の方法

##### a. 研究の方法

この研究では定量的記述法を用いている。

##### b. 研究の対象者

この研究の対象者は 三つの学校のバンドンに高校のことなる、数は一年生と二年生の 1 5 0 の高校生である。

##### c. 研究の用具

この研究の用具はテストとアンケートであった。

#### 5. 調査の結果

評価基準を用いたデータ解釈の結果に基づく。テスト問題では、高校生の誤り率は 6 7 , 1 3 パーセントで、この割合の能力レベルの平均的な高校生からみると、 3 2 , 8 7 パーセント「十分に低い」である基本レベルの助詞にあげる。アンケートデータに基づいて、高校生の理解不足を引きおこすよういんは、助詞の機能を覚えるのに難しさである。また、日本語の単語、助詞、文系を勉強する高校生のテストさの欠如である。

#### 6. まとめ

テストの結果とアンケートの結果に基づいて、この研究の結論は、高校生が理解する言葉で正しく答える傾向があるという質問に答えることになる。

「さくら」という本の中にその言葉があるかどうかを見ないで、でも言葉だけではなくて文型も理解するのがあまりできない。これは高校生が習った言葉でかんせいの問題を答えるときが分かっている。テストデータ分析にあげ

る高校生の回答の平均計算から、32, 87パーセントのきそレベルの助詞を使用する際の高校生の野力レベルである「かなり低い」。そして、67, 13パーセントの基礎レベル助詞を使用する際の高校生の間違いレベルである「かなり高い」。そして、最も簡単基礎レベル助詞から最も難しいまで、高校生が理解している助詞の順序は「が、で、は、に、へ、の、を、と、も」である。高校生が日本語の助詞を理解する上での難しさは、高校生が助詞の機能について本当に詳しく理解しておらず、ぶんせつの使いやすさを忘れるということである。

Sutedi, Dedi. 2011. *Penelitian Pendidikan Bahasa Jepang*. Bandung: Humaniora.

Arikunto, Suharsimi. 2010. *Prosedur Penelitian*. Jakarta: Rineka Cipta.